

甲南大学法科大学院入学試験問題について

2018年度秋入学・2019年春入学
一般入学試験（A日程・8月19日分）

試験科目：民法

1. 出題趣旨

金銭消費貸借契約の事例をもとに、債権の消滅時効とその主張の制限について問うた。設問1では時効の更新（中断）事由としての承認を正しく理解できているかを確認した。設問2では時効完成後に自認行為があった場合の時効の主張制限についての判例法理の理解を、設問3ではその判例法理の射程について考える力をみた。

2. 採点実感

承認については正しく理解できている答案がほとんどであったが、時効完成後の自認行為については、判例法理について「信義則」という言葉を用いて論じるということは分かっているとしても、承認や時効利益の放棄といった民法に組み込まれたルールとの関係（とくに後者）に正しく配慮できている答案は多くなく、また「信義則」の内実についても十分に説明できているものは必ずしも多くなかった。

3. 学習方法

時効の更新事由や時効利益の放棄は条文に出てくるルールであるから、正確な理解を身に付けておきたい。また、時効完成後の自認行為の判例にしても、表面的な理由付けにとどまらず、一歩突っ込んで理解を深めるようにしたい。

そのために、ふだんから教科書をよく考えて読む習慣をつけたいところである。